

地域や実需者に愛される持続可能性に配慮した国産鶏普及の取組

抗菌性飼料添加物を使用しない 採卵鶏の飼養管理への挑戦 ～家畜改良センター岡崎牧場の取組～



2023（令和5）年6月
独立行政法人 家畜改良センター 岡崎牧場

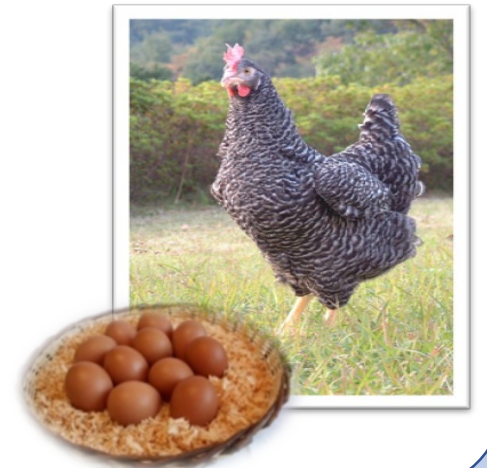
家畜改良センター岡崎牧場の取組(業務の概要)

岡崎牧場の業務

- ・ 岡崎牧場は我が国唯一の公的な採卵鶏育種改良機関として、日本の食習慣や気候風土に適した採卵用種鶏の開発、改良基礎系統を県や民間に配布し、国産鶏の振興を図っています。
- ・ 凍結精液の実用化、卵質検査データ収集管理システムの構築など、改良増殖に関する新技術の開発・実用化を行ってきました。
- ・ 国内外を対象に研修生を受け入れ、幅広い養鶏技術を持つ技術者を養成しています。
- ・ 烏骨鶏、横斑プリマスロック等の遺伝資源を保存する、ジーンバンクとして機能しています。

岡崎牧場が開発した『岡崎おうはん』

- ・ 「岡崎おうはん」は横斑プリマスロックと、ロードアイランドレッドを掛け合わせ、両方の好ましい部分を受け継いだ交雑種です。
- ・ 「岡崎おうはん」は、鶏の育種素材の多くを海外に頼る日本にとって、食の安全安心を確保しつつ、卵も肉も良質なものを供給できる国産の鶏として活躍しています。



岡崎牧場のこれまでの衛生対策と新たな対応への移行

これまでの衛生対策

- ・国内での鳥インフルエンザ等の疾病発生に対し、**厳しい衛生管理**を行うことで、**外部からの病原体侵入を防ぐ取組**を行ってきました。
- ・一方で、養鶏の中で問題とされる**コクシジウム**や**クロストリジウム**により飼料中の栄養成分の利用が阻害されないよう、**育成中の幼すうと中すうに限り抗菌性飼料添加物**である『サリノマイシンナトリウム』及び『アビラマイシン』を含む飼料を使用していました。



GAP認証の取得を契機に抗菌性飼料添加物の使用をゼロに

- ・岡崎牧場は令和3（2021）年12月にJGAP認証※を取得しました。JGAPの認証基準の一つに飼養管理の徹底等により抗菌性物質の使用の低減に取り組むこととされています。
- ・このため、抗菌性物質の使用の低減策として、**抗菌性飼料添加物が必要か否か検討を開始**しました。
- ・飼養担当職員からの聞き取りや、過去の斃死鶏の所見等により、**コクシジウム等への対応が必ずしも必要でないことを確認し、抗菌性飼料添加物の使用は不要と判断**しました。
- ・その後、飼料製造業者との協議・調整などの準備を行い、**令和5年に誕生した鶏から抗菌性物質を一切与えない飼養管理を開始**しました。

※JGAP(畜産)の審査基準は、**持続可能な農場経営への取り組みに重要**となる、食品安全を始め、家畜の健康（家畜衛生）や快適な飼育環境への配慮（アニマルウェルフェア）、労働者の安全対策、環境保全などの項目がある。

抗菌性飼料添加物を使用しない採卵鶏の飼養管理へ

鳥インフルエンザ等疾病対策のため、厳しい衛生管理により、外部からの病原体侵入を防ぐ

幼すうと中すうに限り、コクシジウム等による飼料中の栄養成分の利用が阻害さないよう、抗菌性飼料添加物を含む飼料を使用

2021年12月
JGAP認証

JGAP認証の取得を契機に
抗菌性飼料添加物の必要性の検討を開始

2023年2月から開始

抗菌性飼料添加物を含まない飼料を給与

成長や産卵の状況をモニタリング

検討にあたっての確認や調整等の内容

- ・ 衛生状況の確認
 - ▶ 過去の斃死鶏の所見等からコクシジウム等への対応が必要でないことを確認
- ・ 飼料製造業者と協議・調整
 - ▶ 抗菌性飼料添加物を除いた飼料製造の可否を確認
 - ▶ 抗菌性飼料添加物を除いた飼料であることを確認できる飼料表示票の添付を依頼

抗菌性飼料添加物は必要ないと判断



抗菌性物質の使用をゼロすることの効果と今後の取組

抗菌性物質の使用をゼロにする際の対応とその効果

- ・ **飼料製造業者**には、抗菌性飼料添加物を含まない飼料の供給を依頼し、**円滑に供給**していただいています。
- ・ なお、抗菌性物質を含まないことによる**飼料費代の削減が期待**されますが、現時点では**大幅なコストダウンにはなっていません**。
- ・ **メリット**としては、抗菌性物質の不使用により**飼料の管理業務が簡素化**され、もし誤って成鶏に給与した場合でも、**休薬期間中の個体を出荷するリスクがなくなった**ことです。

今後の取組

- ・ **令和5年2月**に取組を開始し、**発育に特段の問題はない**状況です。
- ・ **引き続き**、抗菌性物質を使用しない飼養管理により育成した鶏の**成長や産卵の状況をモニタリング**していきます。
- ・ また、鶏の**健康状態の把握・診断**を行い、**抗菌性物質を使用しない飼養管理を維持**できるよう取り組んでいきます。

